

いま「協同」を問う'94全国集会への呼びかけ

—人と地域に役立つ、新しい働き方と協同の仕事おこし—

いま「協同」を問う'94全国集会実行委員会

「90年代不況」の中で、ホワイトカラーや管理職を含めた企業の人員削減が推し進められ、若者の就職難という欧米社会を悩ましてきた問題が日本においても現実となりつつあります。その一方で、働きがいある仕事、本当の豊かさ、人間らしく生きられる地域に対する人々の願いが抗しがたい力をもって広がり、歴史の転換が深いところで準備されていることが感受されます。

こうした中で私たちは、来る11月26、27日、名古屋市の中京大学で「人と地域に役立つ、新しい働き方と協同の仕事おこし」をテーマに、「いま「協同」を問う'94全国集会」を開催することとしました。地元愛知をはじめ、「協同」の実践に携わる全国の団体・個人のみなさん、「協同」に関心を寄せられるみなさんが、本集会を共に成功させていただくよう、心から呼びかけます。

「協同を問う」運動の大きな広がりの中で迎える'94名古屋集会

「いまの世の中、金もうけ本位、弱肉強食、人をけ落とさなければ自分が馬鹿をみる……。こんな風潮ばかりのように見える。けれどもよく見ると、そんな中でも助け合い、協力して、自分たちで「つくる」、協同の運動が意外なほど着実に、いろいろな部面で広がっているのではないか。そうした運動がまずは一度集まって、「協同」のエネルギーと今日の時代の中でのその可能性をみんなで探ってみよう」

——バブル経済たけなわの87年7月、このような主旨から、伊東で「いま「協同」を問うプレ集会」が開催されました。集会には220人の人々が部門を越えて集まり、「生産者、労働者の協同」という協同組合運動の新たな胎動を確認するとともに、「障害者協同組合」や「農業・農村型生産協同組合」づくり、「働く者による文化の創造・普及・観賞の結合」、さらには「協同組合セクターによる地域づくり」の方向が熱く語り合われました。

協同集会は、その後、89年に明治大学における「労働者協同組合・生産者協同組合を現代に問う」五月集会、90年の「人類の危機と協同の今日的意義」をテーマとした十一月集会へと展開し、これと並行して「労働者協同組合グループ」が形づくられ、さらに「協同」の常設的な情報・研究機関として「協同総合研究所」が91年3月に設立されました。

92年6月には京都の立命館大学を会場に「人類の危機と協同でひらく未来」をテーマに、140団体、612人の参加で、最高の規模と内容の集会をつくりあげました。そして長野、北海道、青森、鶴岡、埼玉など、協同集会は地域のレベルへと広がり、本年6月には神奈川で「ワーカーズ・コープ研究交流集会」を成功させました。

さらに本年2月の名古屋集会を第一弾として、全国縦断シンポジウム「雇用不安と労働の未来」が、仙台、佐賀、岡山に引き継がれ、労働組合、労働者協同組合、農業団体、生活協同組合、医療・福祉団体などの代表と研究者、弁護士が、「大企業・政府依存でない、働く者による仕事おこし」を語り合い、そのための政策提案を検討する段階にきています。

折りしも来年95年には、ICA（国際協同組合同盟）が創立百周年を記念する大会をイギリスのマンチェスターで開き、21世紀に向けた「協同組合宣言」を発すると同時に「協同組合原則」の歴史的な改定を行おうとしています。

本年の名古屋で開かれる94年全国協同集会は、ICA大会をも見すえながら、全国と地域の協同集会の

発展と雇用シンポジウムの成果を集大成し、「働く者による仕事おこしの総合戦略」を練り上げるための、画期的な集会として開かれようとしています。

「人と地域に役立つ、新しい働き方と協同の仕事おこし」を問う集会へ

本集会は、第一に、働く者による仕事おこしと企業・労働の民主主義的変革を、本当の豊かな生活と地域をつくる根本としてとらえ、深めようとするものです。私たちはそのことがひいては当面する不況と雇用不安、人類的な危機を克服する対案の土台ともなりうるのではないかと考えます。

90年代不況は、自動車、エレクトロニクス、工作機械など、これまで日本経済をリードしてきた産業を直撃しており、大企業は人員削減と不安定労働者への大量の置き換え、生産拠点の海外移転の本格化など、「雇用なき回復」の方向を本格的に追求しています。企業による就労の機会が狭められる一方で、高齢者介護をはじめとする福祉サービスや農林水産業、環境を守る製品・システムづくりなど、おこすべき仕事は地域に山積しています。金もうけ第一主義の大量生産・大量消費・大量廃棄のあり方が、今日の産業や社会の変動に対処できないことを示すとともに、これに代わる方向として、協同組合や非営利組織の活動が新たな意味をもって注目と期待を集めつつあります。

現実には、女性たちの自己実現や高齢者の生きがいのための仕事から本格的な協同の事業化にいたる、さまざまな形の仕事おこしの動きが確実に広がり、「機会があれば自分も仕事をおこしてみたい」と願う人々はさらに膨大な数にのぼっています。

全国に広がる仕事おこしの実践を総結集し学び合おう

今年の集会はしたがって第二に、そうした仕事おこしの実践を可能な限り総結集し、その全体像を生き生きと描き出すとともに、教訓を余すところなく汲みつくそうとするものです。

集会開催地の愛知では、「協同組合運動とまちづくり」のシンポジウムがいち早く取り組まれ、「福祉協同組合」をはじめ福祉の協同が本格的に発展し、黄柳野高校や学習障害児の見晴台学園などの学校づくり、「子育てコープ」や女性たちの仕事おこし、高齢者の仕事おこしと「高齢者協同組合」「生きがい生協」づくり、中小企業の自立と地場産業の再生に向けた動きが始まっています。

全国的にも、「食」と「農」、福祉にかかわる仕事おこしや、環境を守る製品・エネルギー・社会システムづくりなど、事業分野が広がり深まると同時に、92年ICA東京大会で日本労働者協同組合連合会がICAに加盟を認められ、労働者協同組合の法制化が現実的な課題となっています。また生協、農協などの大きく発展した協同組合においても、組合員の中から仕事おこしの要求が高まるとともに、「人と地域に役立つ」事業の発展とそれを担う労働のあり方が模索されています。

「協同」の意義を深め、「自治」「公共」と結ぼう

第三に、そうした仕事おこしを着実に成功させ、発展させていく上で、運動・事業・組織のすべてにおいて「協同」の持つ意味を掘り下げることです。

①「人と地域に役立つ仕事をおこし、それを事業として継続し、社会発展に役立つものに高める」新しい「事業」の考え方や、②構成員の一人ひとりが主人公となって民主主義的運営をつらぬき、人間的に発達して、社会に役立つ「よい仕事」を自覚的に追求する組織づくり、③他のさまざまな協同の運動や地域の人々と広く連帯し、結び合うことなどは、「協同」の重要な中身となるでしょう。とりわけ協同組合間協同の中からたくさんの仕事が必要されており、「協同」の方向をさまざまな角度から探究し、その途上での課題を解明することが必要になっています。

第四に、「協同」の仕事おこしが、地方自治をはじめとする行・財政の民主主義の発展と不可分の関係にあることを自覚して、公共と協同の新たな連携のあり方を探ることです。

すなわち、既存の公的制度では満たされないさまざまな住民要求を協同の側が先進的に取り上げ、実践の裏付けの上にそれらの業務に対する公共的な位置付けと責任を一步一步明確にすること。他方では、協同の仕事おこしの担い手が、地域の民主主義的発展の政策づくりと実行に加わり、「仕事をおこす権利」を法と制度に高めてこれに対する公的支援の政策を確立することです。

最後に、本集会は、こうした日本における仕事おこしの実践と理論の到達点を踏まえて、ICAの協同組合宣言と原則の討議に対する報告と問題提起の発信の場としたいと考えます。

「協同」に心を寄せるすべての皆さんが、94年全国協同集會に参加されることを、心から訴えます。

「いま、協同、を問う'94全国集會」のプログラム

いま、協同、を問う'94全国集會実行委員会

月 日	1994年11月26日(土) 午前10:30 ~ 27日(日) 午後3:30
会 場	中京大学(名古屋市昭和区八事本町101-2、地下鉄鶴舞線八事駅下車徒歩5分)
宿 舎	名古屋クラウンホテル(名古屋市中区栄1-8-33、地下鉄鶴舞線伏見下車)
参加費	一般3,000円 学生1,000円 交流会3,000円
主 催	いま、協同、を問う'94全国集會実行委員会 実行委員長:黒川俊雄(協同総合研究所理事長、慶応大学名誉教授)
内 容	(実行委員会での検討をへたもので、一部未定のものもあります)
○全体会○	11月26日(土) 午前10:30~午後5:50 記念講演 宮本憲一(立命館大学教授)「自治の発展と働きがいある仕事への転換」 全体シンポジウム 問題提起 橋本吉広(東海コープ研究センター準備室長) 第1セッション——各地の元気な仕事おこしの紹介と交流—— ・座 長 内山哲朗(工学院大学)、的場信樹(京都府立大学) ・パネラー 片山元治(愛媛・無茶々園)、金城恵忠(愛知・黄柳野学園設立準備委員会) 愛知高齢者協同組合、小川泰子(神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会) 第2セッション——協同の地域づくり・仕事おこしの課題——ICA大会への問題提起—経済社会 の変動の中で協同組合はどのような仕事をおこし、地域づくりに関わるか ・座 長 富沢賢治(一橋大学)、金持伸子(日本福祉大学) ・パネラー 山崎丈夫(東海自治研)、山田鋭夫(名古屋大学)、後 房雄(名古屋大学)、 永戸祐三(日本労協連)、佐藤 誠(立命館大学)
○交流会○	11月26日(土) 午後6:15~午後8:00
○分科会○	11月27日(日) 午前10:00~午後3:30 ①協同の仕事おこしと経営、②高齢者・障害者の協同組合とそれを支える公共と協同のネットワーク、 ③環境を守る製品・エネルギー・システムづくり、④女性たちの仕事おこし、⑤子育て・教育の協同 と協同組合、⑥文化の協同と協同組合、⑦協同でひらく地域経済、⑧新しい働き方と職場・企業をつ くりかえる、⑨労働者協同組合入門講座